

令和6(2024)年度

高等学校における教科指導充実に関する調査研究



教科における探究的な学習の充実

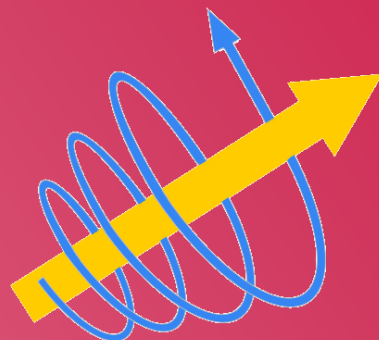
～新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指して～

理論編Ⅱ

～『探究ルーブリック』の活用～



「探究活動のモデル図」



青色矢印で示す探究のプロセスを経て、黄色矢印で示す資質・能力が育まれる様子を図示したもの。

栃木県総合教育センター 研究調査部

令和7(2025)年 3月発行



教科における探究的な学習を充実させるために

「教科における探究的な学習」を実践する上で、このような声が聞かれます。

- ◆「主体的」に学べるよう生徒に任せてみたいけれど、自由度が高いと、思わぬ方向に進む生徒や、全く動き出せない生徒がでてきそうで不安。
- ◆生徒一人一人の学びが多様になると、適切に評価できる自信がない。
- ◆探究的な学習を実践したいけれど、十分な時間がない。



詳しくは「教科における探究的な学習の充実 理論編」を参照してください。



「教科における探究的な学習」の取組では、以下のような生徒の姿が見られています。

- ◇うまくいかないことがあっても、目的を達成するために試行錯誤を繰り返して調整し、何度もチャレンジしている。
- ◇グループ内で情報を共有したり、意見を交換したりすることで、自分だけでは気付けなかった新たな視点を得て、分析や考察を深めている。
- ◇既習事項や他教科で学んだことを関連付けて、考えを広げたり深めたりしている。
- ◇自分の意見を主張する際に、どのような情報が必要で、どのように伝えればよいのかなどをよく考えて発表するなど、伝え方に創意工夫をしている。
- ◇自分で取り組んできた学びの過程を振り返り、成果や課題を整理して次の学びに生かそうとしている。



探究的な学習を充実させるためのポイント

- 単元（題材）等を通して育成を目指す資質・能力を明確にします。
- 単元（題材）等全体を見通した指導計画を作成します。
 - ・生徒がどの場面で、どのようなことを達成できているとよいのか、具体的に表現します。
 - ・探究的な学習の過程（課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現など）を設定します。
- 生徒が単元（題材）等の見通しをもって、探究的に学べるようにすることで、主体的・協働的に学習に取り組めるようにします。



単元（題材）等を通して育成する資質・能力を、観点やレベル別に整理し、一覧表にしたものが「ルーブリック」です。

教師と生徒がルーブリックを通し、目標を共有して取り組むことで、探究的な学習の充実につながります。また、ルーブリックを活用することで、教師は指導と評価が一体化した授業を展開しやすくなり、生徒は主体的に学ぶ上での支援を得ることができます。



生徒の学びを支える「探究ルーブリック」

生徒が主体的に学びを進めるためには、生徒が学習の見通しをもったり、振り返ったりする尺度を設けることが大切です。その場面において、生徒が活用するルーブリックを、ここでは「探究ルーブリック」と称します。探究ルーブリックを生徒と教師が共有することで、探究的な学習がより充実したものになります。

生徒



どのように学習に取り組めばよいか見通しをもったり、学習後の自分の姿のイメージをもったりすることができます。

ルーブリックを基に自分の学習到達度を確認しながら、自らの学習を調整することができます。

自己評価、相互評価などの振り返りの活動を通して、自分の成長を実感したり、次の学びにつなげたりすることができます。

主体的な学びが促されます。

教師



生徒一人一人の学習状況を把握しやすくなり、的確なフィードバックや支援をすることができます。

「指導と評価の一体化」につながります。



探究ルーブリックを作成する際の考え方

ポイント 探究ルーブリックでは、育成を目指す資質・能力を基に観点を設定します。

● 探究的な学習の過程の各場面で育成する資質・能力を意識して観点を設定する場合の例

	「情報収集」の力	「整理・分析」の力	「まとめ・表現」の力
A	客観性・信頼性の高い情報を、複数の媒体・情報源から収集している。	収集した情報に基づいて客観的に考察を行い、結果を整理して論理的にまとめている。	表現方法を工夫して、調査の目的、方法、情報収集・分析、考察を明確に伝えている。
B	客観性・信頼性の高い情報を収集している。	収集した情報に基づいて客観的な考察を行い、結果をまとめている。	調査の目的、方法、情報収集・分析、考察を明確に伝えている。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

● 探究的な学習を通して育成する資質・能力を意識して観点を設定する場合の例

	論理的に表現する力	学びを深める力
A	相手が理解しやすいように、根拠を明確にし具体例を提示するなどして、論理的に伝えている。	他者の考えを理解し、自身の考察を深め改善している。
B	相手が理解しやすいように、論理的に伝えている。	他者の考えを理解し、自身の考察を深めている。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

ポイント 生徒が活用することを踏まえ、記述内容を具体的にします。

- ・ 何に注意して学習すべきかの見通しをもちやすくなります。
- ・ 自己の学習を振り返り、さらに向上させようという意欲をもちやすくなります。



『探究ルーブリック』 FAQ

作成について

Q 評価の観点の設定が難しいです。何かポイントがありますか？

A 生徒が学習の各過程で、何をどのように学ぶのかを確認しながら学習を進めていくことを想定するのであれば、学習の各場面で育成する資質・能力を意識した観点を設定します。その際は、単元（題材）等の指導計画に沿って、生徒の具体的な学習活動を書き出し、そこで発揮される資質・能力をイメージして観点を設定しましょう。

生徒が学習全体を通して、自分で発揮すべき資質・能力を判断しながら、必要に応じて探究ルーブリックを見返して学習を進めることを想定するのであれば、単元（題材）等を通して育成する資質・能力を意識して観点を設定するとよいでしょう。単元（題材）等の目標に基づき、ゴールまでに生徒が発揮する資質・能力を具体的にイメージし、言語化しましょう。

Q 評価のレベルは3段階でなければいけませんか？

A 単元（題材）等の評価規準を基に探究ルーブリックを作成することを考慮すると、評価のレベルを「おおむね満足できる」状況を標準とし、「十分満足できる」状況と「努力を要する」状況の3段階に設定したものが標準的です。

生徒の学習状況に応じて、4段階（S・A・B・C）の評価のレベルを設定することも考えられます。ただし、あまり細かく分けると各段階の違いを明確に表現することが難しくなったり、生徒が理解しにくくなったりするので、注意が必要です。

Q 記述内容はどのような手順で作成すればよいですか？

A 3段階評価（A・B・C）であれば、各観点のB評価（目標をおおむね達成した生徒の姿）から記述し始めるとよいでしょう。その後、A評価（目標を十分に達成した生徒の姿）について具体的に記述し、B評価に達しない生徒の姿をC評価とします。

探究ルーブリックは生徒が活用するものなので、あいまいな表現（「分かりやすい」「とてもよく」など）や抽象的な用語（「豊かな」「創造的な」など）は避け、生徒が理解できるよう、具体的な記述内容を作成しましょう。必要に応じて、授業中に説明を加えたり、ルーブリックの表の欄外に具体例などを示したりするとよいでしょう。

Q 評価したい観点がたくさんあります。どうすればよいですか？

A 探究的な学習の過程や資質・能力の具体を基に細かく観点を設定すると、観点が多くなることがあります。そのような場合は、いくつかの観点をまとめたり、必要な観点到絞り込んだりして設定するとよいでしょう。また、単元（題材）等や探究的な学習全体を見通して、学習活動に応じて重視する観点を精選したり、選択したりして活用することも考えられます。

なお、どの単元（題材）等で、どの資質・能力に着目して評価の観点を設定するかを、年間を見通して検討し、偏りがいないか、時間的に無理がないかなどに配慮して計画を立てることが重要です。

活用について

Q 生徒が、どのような場面で探究ルーブリックを活用すると効果的ですか？

A 探究的な学習活動の場面によって活用のねらいが異なるので、場面に応じて使い方を工夫する必要があります。また、生徒が効果的に活用できるよう、活用のねらいや方法を説明するなど、教師が支援することも大切です。

(例)・導入時…主体的に学びに向かうことができるよう、学習の見通しをもつ。

・展開時…自己調整をしながら学びを進められるよう、自分の学習到達度を把握する。

・終末時…学んだことの価値に気付いたり、次の学びに向けて自己課題を設定したりできるよう、自分の学びを振り返る。

Q 教師はどのように探究ルーブリックを活用すればよいですか？

A 探究ルーブリックは、生徒と教師が共有することを想定して作成します。例えば、探究ルーブリックを基にして実際の生徒の学びの姿と照らし合わせることで、生徒の学びを促すための適切なフィードバックを行うなどの「指導に生かす評価」として利用したり、自身の指導を振り返り、改善を図ったりすることが考えられます。また、各場面で発揮される生徒の資質・能力を評価する際、ルーブリックのいくつかの観点の評価基準として活用し、「記録に残す評価」とすることも考えられます。

Q 探究ルーブリックの評価基準を、途中で変更してもよいですか？

A 探究的な学習を進める中で、探究ルーブリックが、生徒の学習状況を適切に評価できていないと感じる場合は、探究ルーブリックに改善を加えることも考えられます。

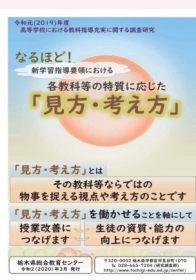
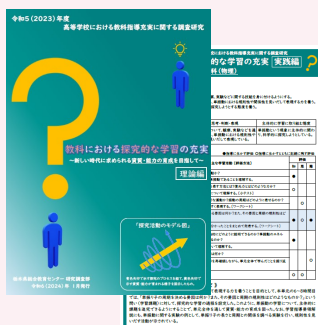
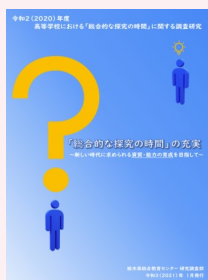
(例) 教師の予想を超えて、多くの生徒が「十分満足できる」状態に到達した際には、学びの状況を見取りながら、生徒とともに新たな基準を作成するなどして、さらに上の到達目標を設定する。

また、単元(題材)等の終了後は、教師間で探究ルーブリックの妥当性、信頼性や、生徒の主体的な学びが促されているかなどを検証し、必要に応じて見直しや改善を加えていくことが大切です。

資料の紹介

探究的な学習を充実させるために、以下の資料も併せてご覧ください。

いずれの資料も栃木県総合教育センターWebサイトで閲覧及びダウンロードできます。



【問合せ先】 栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070 TEL 028(665)7204